

《担当者名》○八木こずえ [co-yagi0913@hoku-iryu-u.ac.jp]
 神田直樹 [kanda@hoku-iryu-u.ac.jp]

【概要】

臨床現場における看護実践で直面する倫理的問題に対して、倫理の基礎的知識を基盤に対応する方法を検討する。倫理的ジレンマとは何か、それを理解するためのツールを紹介し、実際に事例を基に検討する。合わせて、倫理的意思決定のプロセスを学習し、高度実践看護師の役割として求められる倫理調整についてその造詣を深めることを目的とする。また、所属組織や専門分野のリーダーとして倫理的文化の醸成を目指したアプローチを考案する。

【学修目標】

- 1) 医療倫理および看護倫理の歴史的発展について説明できる。
- 2) 倫理原則と看護実践上の重要となる概念について説明できる。
- 3) 倫理的ジレンマの状況を理解するための分析方法を理解し、倫理的意思決定へのプロセスを検討できる。
- 4) 高度実践看護師として、各専門分野で起こる可能性が高い倫理的課題や具体的な事例への対応および倫理調整を考察できる。
- 5) 高度実践看護師として、倫理的意思決定を支える組織づくりに寄与する方策や教育計画を考案することができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	看護倫理の基礎的理解	看護倫理の歴史 医療倫理と看護倫理 倫理原則	八木
2 3	倫理原則と看護実践	倫理原則と看護実践上で重要となる概念（自律、ケアリング、アドボカシー、インフォームドコンセント）の理解	八木
4 5	倫理的ジレンマの状況の理解	臨床における倫理的ジレンマについてのレポート課題（学生によるプレゼンテーション） 倫理的ジレンマと倫理的概念との関連について分析（討議・レポート作成）	八木
6	倫理原則の臨床応用と倫理問題に対する視点の理解	臨床での倫理原則の活用・具現化 倫理的問題に対するアプローチ方法（問題分析、問題解決のための方策）	神田
7	倫理的意思決定のための検討	倫理問題検討ツール・概念の理解 ・ Jonsenの症例検討モデルの理解と事例の検討・討議（学生によるプレゼンテーションを基に討議）	神田
8	倫理的意思決定のための検討	倫理問題検討ツール・概念の理解 ・ Fryの倫理的意思決定モデルの理解と事例の検討・討議（学生によるプレゼンテーションを基に討議）	神田
9	倫理的意思決定のための検討	倫理問題検討ツール・概念の理解 ・ 臨床倫理検討シートの理解と事例の検討・討議（学生によるプレゼンテーションを基に討議）	神田
10	看護実践における倫理的課題	終末期医療と延命治療、患者の自律尊重（事例を用いた討議）	神田
11	看護実践における倫理的課題	高度医療・移植医療に伴い生じる倫理的ジレンマ、代理意思決定への支援（事例を用いた討議）	神田
12	看護実践における倫理的課題	身体拘束・隔離、幻覚・妄想状態における倫理的ジレンマと倫理的意思決定（事例を用いた討議）	八木

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
13	倫理調整と倫理コンサルテーションの実際	高度実践看護師の倫理調整における役割と活動実践	八木
14	倫理調整と倫理コンサルテーションの実際	チーム医療における高度実践看護師による倫理調整の実際 倫理コンサルテーションチームの必要性と役割	神田
15	倫理問題への組織的アプローチ	高度実践看護師としての倫理的意決定を支える組織作りと教育 倫理問題の検討・解決できる組織作りと教育方法・教育計画の検討	神田

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

プレゼンテーション（30%）、討議への参加（30%）、課題レポート（40%）で評価する。

【教科書】

指定しない。講義開始後に随時、必要な文献を提示するか配布する。

【参考書】

Fry, S., Johnstone, M. 著, 片田範子・山本あい子訳：看護実践の倫理 第3版, 日本看護協会出版会, 2010.

Jonsen, AR., Siegler, M., Winslade, WJ., 著, 赤林朗・蔵田伸雄・児玉聡監訳：臨床倫理学第5版, 新興医学出版社, 2006.

その他随時提示する。

【学修の準備】

参考文献を読み、倫理的ジレンマを感じた事例の記述、分析を行い臨むこと。

【学修方法】

講義や討議を通して倫理的問題に対する問題解決、倫理調整、教育の方略を探求しレポートにまとめる。それぞれの学生が臨床で経験した倫理的問題・葛藤についてプレゼンテーションを行い、倫理的諸概念を用いた問題の捉え方および解決方法、倫理調整について検討する。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

本科目の内容は、看護学における高度な専門性と研究能力を修得するという看護学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。